

令和5年度住民互助による介護予防を考えるワークショップ開催概要

名 称	住民互助による介護予防を考えるワークショップ（真庭市北房地区） 第2回北房ミーティング ～みんなで考えよう！外出支援～
開催目的	真庭市北房地区では、「車がないと、外出に困る」「買い物や病院に行けない」など、移動・外出に困っている方が増えてきている。 この地域に合った移動・外出支援の仕組みを住民、社協、行政等と協働し創りたいと考え、まずは道路運送法や先進事例を知り、興味・関心を持ってもらい、具体的な取り組みにつなげるためワークショップとする。
主 催	真庭市 ・ 真庭市社会福祉協議会北房支所 ・ 美作県民局
企画・運営	生活支援あんしんネットおかやま
参 加 者	○ワークショップ参加者 29名（住民15名、生活支援あんしんネット5名、生活支援グループ「なでしこ」4名 美作県民局2名、社協2名、北房振興局4名、包括支援センター1名） ○道路運送法の理解 講師：NPO法人移動ネットおかやま 理事長 横山和廣さん ○実践報告 ・生活支援グループ「なでしこ」（真庭市久世） 有米英夫さん ○グループワークファシリテーター ・生活支援あんしんネットおかやまメンバー
開催日時	令和6年2月18日（日）13:30～15:30
開催場所	北房文化センター2階研修室（真庭市上水田3131）
開催概要	■開会あいさつ：真庭市北房振興局 局長 大塚清文さん ■真庭市北房地区の現状：北房地区生活支援コーディネーター 村松章子さん ・今までの経緯として、昨年北房地区の高齢者に困りごとのアンケートを行い、その結果から、移動・外出について考えていこうと考え、8月に第1回北房ミーティングを開催した。1回目は、公共交通の話や困っている方の生の声を聞いた。 ・令和4年度の高齢化率は、真庭市39.5%、北房地区44.5%と、真庭市内第3位の高さとなっている。 ・「困りごとアンケート」では、買い物、病院受診が田畑の世話に続き、高い困りごとになっている。 ・「病院受診」等移動手段が、他の項目よりも利用できるサービスが少ないのが現状である。 ・配達可能な店舗も閉店等し、医療機関も閉院が相次ぎ、遠くまで行かなければならなくなっている。 また、タクシー業者も北房営業所が廃止となり、不便な生活となっている。 ・医院の閉院により、公共交通機関での移動が乗り換え等必要になり、待ち時間も多くなり不便になった。

■道路運送法の理解：NPO法人移動ネットおかやま 横山和廣さん

- ・現在、高齢社会の迎え、免許返納等で移動支援に対してのニーズが高くなっている。
- ・移動支援実施において、地域の公共交通の現状や課題、道路運送法を理解する。
- ・住民主体の移動支援には、2006 年道路運送法の枠外の通達「許可・登録不要の互助活動」がある。
- ・これは、許可・登録の手続きが不要の運送であり、地域福祉の観点から、住民たちが互助でつくる移動・外出支援である。
- ・道路運送法における許可・登録を要しない運送の態様についてのケースとして
 - ① 利用者からの給付が、好意に対する任意の謝礼と認められる場合
 - ② 利用する・しないに関わらず、会費等が一律の場合
 - ③ 利用者からの給付が、実費相当分(ガソリン代・有料道路、駐車代)の場合
 - ④ 市町村・社福祉法人等の車輛を使って運行する場合
 - ⑤ 利用者の所有車輛で送迎を行う場合
 - ⑥ 生活支援サービスなどとの一体型として通院や買い物支援をする場合
 - ⑦ 子どもの預かりや家事身辺援助等のサービス一体的に行われる場合 等
- ⇒ 生活支援グループ「なでしこ」
- ・自分の地域の足りないものを知り、担い手を発掘・育成しながら地域にあったものを見つける

・生活支援グループ「なでしこ」（真庭市久世） 有米英夫さん

真庭市久世地域で暮らす人々が、ささえあい・助け合いにより安心して生活できるように “おたがいさま” の気持ちでお手伝いします。

高齢者、障がい者、子育て中の人たちの、生活の中にあるちょっとした「困りごと」のお手伝いをしたいと願う、4 人の志から 2021 年 7 月、支え合いのシステムをつくり、活動をスタートした。

- ・活動の流れ：
「困りごと相談」⇒【事務局】⇒「自宅訪問」⇒「チケット購入」⇒「利用開始」
- ・活動実績：令和 3 年 10 月～現在まで：564 件
買物同行支援：31%・通院同行支援：20%⇒通院・買物等移動のニーズが高い
掃除：15%・調理：10%・草取り等 6%・ゴミ出し 2%・その他：16%
- ・ボランティアスタッフ：25 名・利用登録者：59 名
- ・今までお世話になった地域に恩返しをしたい！
- ・ひとり一人のモチベーションを活かした支援、やりがいや生きがいになっている。
- ・困ったことがあっても SC やケアマネに相談できるので、安心して支援ができる。
- ・5 年後、10 年後にこんなシステムがあれば、自分も助けてもらえる！

■グループワーク

1. 自己紹介
2. グループ名・発表者を決めましょう
3. 報告「真庭市の現状」「道路運送法の理解」・実践報告「生活支援グループなでしこ」
聞いて、思ったこと・感じたこと・気がついたことを出し合いましょう
4. 移動・外出の課題を解決するためには、どうしたら？
5. これから、今日から、私ができることは？

6. 発表タイム

「今日から、私たちは ○○○○○○○○○○ します！」

7. まとめ

■発表タイム

☆グループ①：I G

「移動支援には道路運送法の縛りがあると思っていたが、私たちにもできる！」

4 地区の地域づくり団体が、学習や話し合いの機会をもち、やっ払いこう！」

- ・住民同士の助け合い、生活支援グループ「なでしこ」の活動はすごい！
- ・高齢化率市内 3 位の北房地区、予想以上に移動に困っている人が多く、我々の老後が助け合いのできる社会であってほしい！
- ・このようなワークショップに参加し、現状を知り、困りごと解決の話し合いの機会をもち、同じ思いを共有する人を募り、地域自主組織立ち上げの相談ができれば。
- ・ボランティアには限界もあるが、無理なくできることを考え、北房版「なでしこ」の立ち上げ・・・

☆グループ②：コスモス

「北房地区の移動に関する課題を知り、ニーズに応じた、自由度のある移動支援を行えるよう、協力者を増やし、継続できるシステムをつくっていかう！」

- ・生活支援の重要性や、買い物・受診へのニーズが高いことも理解できた。
- ・生活支援グループ「なでしこ」のような取り組みがあれば良いと思った。
- ・誰でも利用できる、外出・移動支援を地域で考えていきたいと思った。
- ・法律的、金銭面、人的なハードル、また何かあった時（交通事故等）、不安もある。
- ・北房 5 地区それぞれの自主組織、地区社協等の組織があるので協議から始め、現状、制度等の理解、課題解決に向け、仕組み構築の体制をつくっていく。
- ・高齢者だが運転には自信があるので、できる範囲で協力したい。

☆グループ 3：ホテル

「資源が少ないが、他地区の取組みをまねて、自分の地域でできることを取組みたい！」

- ・生活支援グループ「なでしこ」の活動、ボランティアさんに最初の声掛けは？
ニーズに応えられない時は？、車輛は各自持ち込み？、車輛の保険は？ 等多くの質問があった。
- ・北房地域にある資源を知ることが大切である。
- ・他地域の取組み、サービスを勉強し、北房でも出来るか検討してはどうか。
そのためにも人の輪が必要
- ・仕組みができれば、運転や管理等、協力できると思う。
- ・今後、自分も支援が必要となるので、真剣に向きあっていきたい。
- ・仕組みができれば、安心して暮らすことができる、協力をしてくれる人に声をかけていきたい。

☆グループ 4：はじめましての会

「関心がある人の小さな集まりをつくり、そこからまずちょっとずつやっ払いこう！」

- ・タクシー代も高く、シルバー人材センターにも頼みにくい。

- ・バス停まで遠く、行けない。
- ・バスが不便、「ドア to ドア」がいい。
- ・サービスの情報を知りたい。
- ・情報が必要な人に届けていきたい。
- ・今ある組織の中で、SCも交えて話し合いをしていく。
- ・移動支援以外の困りごと（ゴミ出し・草取り等）にも対応できる仕組みにしていける。

■閉会挨拶：美作県民局健康福祉課総括参事 田口 晶伸さん

北房地区の
現状報告の様子



「道路運送法の理解」の
様子



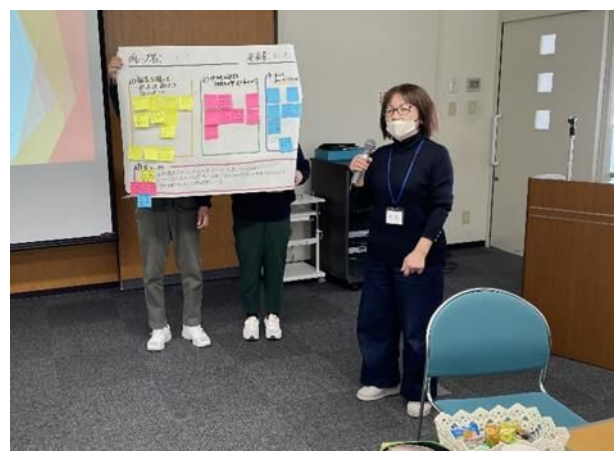
なでしこによる
事例発表の様子



グループワーク
の様子



グループ発表の様子



ワークショ
ップを終え
て
～生活支援
あんしんネ
ットおかや
ま～

楽しい、有意義なワークショップだった。それは参加された、住民、企画スタッフによるものであるが、住民はおおきな力をもっているといつも感じている。
真庭市北房地区は、高齢者率 44.5%、市内第 3 位の高さとなっている。
商店も閉店、医療機関も閉院となり、買い物、受診のために遠くまで行かなければならない状態となっている。大きい課題の移動、外出支援を「地域の助け合い」で解決する仕組みができればと、道路運送法の理解を深め、先進的な活動を実施している生活支援グループ「なでしこ」の報告を聞いた。

	生活の中の困りごと、課題・ニーズを自分事としてとらえ、地域内で解決策を検討するための「ワークショップ」とした。 グループワークで話合ったことを、最後に「今日から〇〇〇〇〇〇します！」と宣言的に発表としてもらったところ、「私たちにもできる」「協力者を増やし、継続できるシステムをつくっていこう！」「自分の地域でできることを取り組みたい！」「まずちょっとずつやっていこう！」という前向きな言葉が多くあった。 ワークショップ終了後のアンケートでも、報告をきいて「北房でも立ち上げてみたい」「協力ならできそう」といううれしい記述があり、また、今後も「北房の移動・外出について一緒に考えてくれる人募集」にも、多くの人が「参加できる」と応えており、目的を達成できたと感じるワークショップであった。 それには、この企画を計画した生活支援コーディネーター等の影の力が大きかったと、心より敬意を表します。
今後の予定	誰もが住み慣れた地域で、いつまでも暮らしていきたいと願っているが、高齢になりできないことが少しずつ増えてくるのも現状である。 「生活支援の仕組みがあれば、安心して生活できる」と、ワークショップのなかでも発言があった。 機会があれば、人の役に立ちたいと考えている人が多いのではないかなと思う。 このワークショップをきっかけに、「助け合いの仕組み」をつくるためにも、この気持ちを忘れないうちに、引き続き、集まる取り組みを企画し、更なる「助け合い地域」への思いが醸成ができればと願っている。

チラシ添付

住民互助による介護予防を考えるワークショップ（真庭市北房地区）

第2回 北房ミーティング

～みんなで考えよう！外出支援～

北房では「車がないと、外出に困る」「買い物や病院に行けない」など、移動・外出に困っている方が増えてきています。地域の支え合いで移動・外出の問題を解決できるか、一緒に学び、考えてみませんか。誰かの役に立ちたい、何かしたいなど、どんなきっかけでも構いませんので、興味関心のある方は、是非ご参加ください。

令和6年

開催日時 **2月18日 日** 13:30～15:30

会 場 北房文化センター2階 研修室（真庭市上水田 3131）

対 象 者 移動・外出支援に興味・関心がある方

内 容 ◆真庭市北房地域の現状について
◆道路運送法の理解
【講師】NPO法人移動ネットおかやま
◆事例報告…生活支援グループなどでしこ
◆グループワーク

定員 40名程度



【申し込み締切り日】
2月9日(金)
※詳細は裏面をご覧ください。

主 催：真庭市・真庭市社会福祉協議会 北房支所・岡山県美作県民局
協 力：生活支援あんしんネットおかやま

住民互助による介護予防を考えるワークショップ（真庭市北房地区）

第2回 北房ミーティング

～みんなで考えよう！外出支援～



電話またはFAXで下記までお申し込み下さい。

【申し込み先】

真庭市社会福祉協議会 北房支所(担当:村松)

TEL0866-52-2900

FAX0866-52-4255

真庭市北房振興局(担当:徳若)

TEL0866-52-2113

FAX0866-52-4496



参加申込書

申込日: 令和 6 年 月 日	
ふりがな氏 名	
住 所	〒
電話番号	- -
所属団体	無・有(団体名:)

※ご記入いただいたお名前・ご連絡先はワークショップ開催に際してのみ使用し、他の目的で使用することはありません。